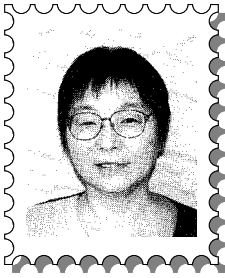


新学期、教育講座の研修会



カナダ・サスカトゥーン市在住

高谷 尚子

9月に新学期が始まり、教育講座の研修会が軒並みで、私も仕事柄、2つの研修会に参加しました。「自閉症再研究」と「3-4才教育児基本講座」です。いずれも州教育局の主催で無料ですが専門家や当事者が押しかけて超満員、2グループに分けて開催されました。

「自閉症再研究」の方は教育委員会の大講堂で、参加者1グループ40人限定で幼稚園や小学校の教師、自閉症児の両親などが集い、熱心に経験や疑問点を投げかけていました。私の担当家族にも何人か自閉症児がおり、大変に勉強になりました。講師は医学心理士とスピーチセラピストの2人で、2日間朝8時半から4時半までとかなりの強行スケジュールでしたが、参加者全員立ち去りがたい思いを残しました。自閉症は2才過ぎた頃から気付き始めることが多いのですが、色々なタイプの症状があり、断定しにくいのが現状です。父親が仕事を休んで参加して

自分の子の事例を話したり、夫婦して熱心にメモを取りながら時には顔きあっていたり、世話を追われて疲れ切っている若い母親や教師が涙を浮かべて励ましあっているのが印象的でした。名案も妙薬ありませんが、周りや地域社会の理解や協力を強固にして明るい未来を作ろうという意欲に満ちていました。

もう一つの研修会は、「Better Beginnings, Better Futures - 初め良ければ未来は明るい」です。3-4才児をプリキンダーガーデン（前幼稚園児）と言いますが、その子らの基本的教育を考える研修会で、参加者は保育園経営者とその教師陣、プリスクール担当父兄とその教師達の参加でこれまた大賑わいでした。1回目は満員で2回目に辛うじて参加を許されました。西部開拓記念館の大宴会場で100人位集まりました。

保育園は私立もありますが、プリスクールは教育委員会の協力で、小学校を借り、関係父兄が率

先して経営し、教師を雇う例が多くなっています。3才の孫も、娘が経営委員の1人で、週2回各2時間半、毎回親が2人当番で教師助手を務め、近所の小学校で行っています。教材器具の整備も消毒も親の役目です。勿論自閉症や障害児も来ますので、州のコミュニティスクールとして貴重な存在です。コミュニティパートナーシップは必須です。小学校に空きがなければ、近所の教会や集会所を使います。共働きの家庭が圧倒的ですので、父兄の協力は皆のスケジュールも加味して、9月に大体の年間の当番表を作ります。3才からのサッカーチームもそうですが忍耐強い父兄の協力で子供の未来は作られていると言っても過言ではありません。

「急ぐ用事は忙しい人に頼め」といわれますが、ここでも同じで、皆忙しく過ごしながらも子供達の為の時間も惜しまず、限られた日常を有効に使いこなしています。



自閉症再研究の研修会の様子



孫の通うプリスクールのある日の様子